

秋山記行

鈴木牧之著。文政十一年（一八二八年）九月に秋山郷を探訪し、翌年には稿本が完成しているが未刊。昭和39年信濃教育会刊行の『秋山記行』17頁より。東洋文庫186『秋山記行・夜職草』33頁にもある。

（秋山第一番の入口、清水川原と云う村の家の様子として）

又、此家の内壁を見るに、横に三尺位づゝ隔て、細木のはつ敷を柱に入れて、（よしず）芳簀を立（たて）に結附、外面は圖の如く茅にて柱（え）壺本も見へず、飛（ひ）く（と）に窓も甚少（すくな）て数もなし。仏檀と見へ、繩を以板を釣り下げ、古き仏絵の掛軸一・二幅かけ、
太神宮の御祓・恵比寿・戸隠の札も張り見へたり。〔え〕

サカミチ 丹梯漸過二軒村 此地云（オ）二清水川原一

コイニ 環堵立寄乞二煎茗一 ニタイテ 俄爇二炬火一 ヲホビ 爐辺温 ナリ

江戸時代の札として「戸隠山九頭龍大権現守護所」「九

頭龍大権現 御本地弁財天 信州戸隠山」などといったものは確認できるが、この「戸隠の札」が如何なるものであったかは不明である。一般に戸隠信仰は九頭龍信仰として広まっていたから、九頭龍関係の札かと思われるが、その場合は九頭龍の札と記しそうな気もする。つまり江戸時代に湯島天満宮の境内に湯島神社（現在は戸隠神社）の名で戸隠明神を祀る社もあり、この場合は手力雄命を意味するので、「戸隠の札」が戸隠明神の札であった可能性も否定できない。いずれにせよ、札の実物がなければ微妙である。

なお、秋山郷（長野県栄村）の近くに松之山郷（新潟県十日町）があるが、その民俗資料館が保存する神棚に大国主命と事代主命と共に戸隠神社御祈禱の札が並べられている。秋山にあった恵比壽が事代主命にあたるとしても、太神宮の御祓いがなく、代わりに大黒様にあたる大国主命がある。地域と時代によって変化があるのであるが、民俗資料館の場合は戸隠神社の語があるから神仏分離以後の物ではあるが、この地方にはまだ戸隠信仰

が健在である。